

49 『大同類聚方(寮本・延喜本)』に見える古代の医術

後藤 志朗

神奈川県平塚市

日本の古代の事柄を考えるには、『古事記』『日本書紀』は重要書物である。

『日本書紀』の神代上の第8段中に見える第6の一書に、「大己貴命と、少彦名命と、力を戮せ心を一にして、天下を經營。復頭見蒼生及び畜産の為は、其の病を療むる方を定む。又、鳥獸・昆虫の災異を攘はむが為は、其の禁厭むる法を定む」とある。

このような記述があることは、これを裏づける資料が存在していたからで、それに基づいて、残っている説話と考えられる。

上記の内容がわかる資料が、佐藤方定が発見した『大同類聚方(寮本・延喜本)』である。

『大同類聚方』は、桓武天皇の遺命・平城天皇の詔に基づき、大同3年(808)5月3日に進上されている。それは、わが国に残る薬方をまとめたものである。

しかし、偽書であると謂われて久しい。その源は、佐藤方定が天保2年(1831)に刊行した『奇魂』にある。

その中で、佐藤方定は、天保2年までに目にした『大同類聚方』の流布本・印本に対して8つの疑問点をあげて、『大同類聚方』を偽書と断定している。

富士川博士が『日本医学史』を纏める際に、佐藤方定の『奇魂』を重視し、その説を全面的に採用したことで、偽書説が不動のものとなった。

しかし、佐藤方定は、自身が真本と認める『大同類聚方(寮本・延喜本)』を嘉永元年(1848)に発見している。佐藤方定は、それを『勅撰真本大同類聚方』と命名して安政3年(1856)より刊行を始めている。

それには、①大穴牟智之教として、阿萬能保乃解乃論・訶波仁阿奈都久毛乃・壘尸仁裳登都久毛能・娜訶波囉仁都久裳濃・阿奈仁訶與布流訶珍・難軻和多乃嚙訶知、②少彦名命之教として、流裝乃慕登比・和座乃倭訶知・蒙屠乃和坐・須會乃倭謝・奈訶乃和座・布佐岐和坐・保佐紀可太・通志流可多・阿都訶太・登豆流伽多・伊太見可多、③武内宿禰之教として、乃喇和太囉依・波伽羅波世・阿治和歌致・師哪迺蒙登・計離須茂能・谿迺茂登・慨迺葛恵・知須地能和可知 が記載されている。

『古事記』や『日本書紀』には、三輪の大物主神に仕えた倭迹迹日百襲姫命(崇神天皇の条)や、伊勢神宮の初代齋宮となった倭姫命(垂仁天皇の条)や、武内宿禰と関係深い神功皇后など、巫女の話が見える。又、「魏志倭人伝」には、女王卑弥呼が鬼道につかえた話が載っている。

古代の日本では、巫女が神に仕え、神と対話をし、助言を得ている。

佐藤方定が真本と認めた『大同類聚方(寮本・延喜本)』には、神より授かった薬方が数多く記載されている。例えば、

- ① 座摩巫祭句句奴智乃神乃告久寸喇
- ② 科野国小縣郡生志満神社之御神之御教之御久須喇
- ③ 山城国紀伊郡稻荷山宇賀霧之神乃御告久春喇
- ④ 伊賀国敢郡敢国神社之神乃御教乃薬乃方
- ⑤ 越后国久比木郡阿彌陀神社之神薬真貞之家仁傳不流薬
- ⑥ 越后国久比城郡阿比多神社之方元ハ少名彦名尊乃神椽之方
- ⑦ 出雲国意宇郡布自南大穴持神社乃神方十二方之一
- ⑧ 出雲国阿伊可郡恵曇神社之神久須喇
- ⑨ 三輪大物主命之御袁新閉

などで、100をこえる薬方が存在する。

これらの事柄を報告する。